

石田梅岩(ばいがん)著「都鄙問答(とひもんどう)」、岩波文庫、岩波書店 1935 年 2 月 15 日刊を読む

あき
商人の道を問の段

- Q : 1. 或商人問日、賣買は常に我身の所作としながら、商人の道にかなふ所の意味何とも心得がたし。
2. 如何なる所を主として、賣買渡世を致し然べく候や
- A : 1. 答商人の某始を云ば古は、某餘りあるものを以てその不足ものに易て、互に通用するを以て本とするとかや。
2. 商人は勘定委しくして、今日の渡世を致す者なれば、一錢輕しと云べきに非ず。
3. 是を重て富をなすは商人の道なり。
4. 富の主は天下の人々なり。
5. 主の心も我が心と同じきゆへに我一錢を惜む心を推て、賣物に念を入れ少しも僥相にせずして賣渡さば、買人の心も初は金銀惜しと思へども、代物の能を以て、その惜む心自ら止むべし。
6. 惜む心を止善に化するの外あらんや。
7. 且天下の財寶を通用して、萬民の心をやすむるなれば、天地四時流行し、萬物育はるゝと同じく相合ん。
8. 如此して富山の如くに至るとも、欲心とはいふべからず。
9. 欲心なくして一錢の費を惜み、青戸左衛門が五拾錢を散して、十錢を天下の爲に惜まれし心を味ふべし。
10. 如此ならば天下公の儉約にもかなひ、天命に合ふて福を得べし。福を得て萬民の心を安ずるなれば、天下の百姓といふものにて、常に天下大平を祈るに同じ。且御法を守り我身を敬むべし。
11. 商人といふとも聖人の道を不知は、同金銀を設けながら不義の金銀を設け、子孫の絶ゆる理に至るべし。
12. 實に子孫を愛せば、道を學て榮ることを致すべし。

P26 ~ 27

[コメント]

商人にも聖人の道を知るための学問が必要と説く。商人でもあり学者でもあった石田梅岩の「都鄙問答」は奥が深い。岩波文庫のこの本を読んで自分のものにするには、高校の漢文の知識は不可欠。高校時代の学習はいかに大切かが実感される。既に高校を卒業してしまった方は、やさしい参考書を用いて漢文の再学習を。

— 2014 年 1 月 2 日 林 明夫記 —